

島根県公共事業再評価 対応方針（案）

作成日 令和2年 6月

番号	事業概要・事業主体等	事業の進捗状況	事業採択時の状況及び社会情勢の変化等	事業効果	環境への配慮 事業を中止した場合の影響	今後の県の方針案
	(事業概要) (事業主体の根拠)	(事業採択・着手・完了予定年度、経過年数) (進捗状況と今後の見込み)	(事業導入の経緯・目的) (事業を取り巻く社会情勢) (事業に対する地元情勢・計画の熟度)	(費用対効果) (コスト削減・代替案等) (その他の効果)	(生活環境・自然環境への影響) (事業を中止した場合の影響)	(継続・中止)
7	<p>(事業名・地区) 朝酌川 流域治水対策河川事業</p> <p>(事業位置) 松江市学園南外</p> <p>(事業費) 5,337,000 千円</p> <p>(事業概要) 上追子川 ポンプ場増設N=1基 四十間堀川 放水路L=350m 橋梁部幅N=1橋 中川 河川調整池N=1箇所</p> <p>(事業主体の根拠) 河川法第9条2項</p> <p>(再評価区分) ④再評価実施後5年経過し継続中</p> <p>(担当部課名) 土木部河川課</p>	<p>(事業採択・着手・完了予定年度、経過年数) 事業採択年度：平成27年度 用地着手年度：平成27年度 工事着手年度：平成27年度 完了予定年度：令和20年度 経過年数：6年</p> <p>(進捗状況と今後の見込み) 進捗率： 29% 用地： 29% 工事： 29%</p> <p>令和20年度完成予定</p>	<p>(事業導入の経緯・目的) 事業着手前の河川は、流下能力が低く、度々浸水被害が発生している。昭和39年の梅雨前線豪雨による洪水で大きな被害が発生し、抜本的な治水対策を行うため、事業に着手することとなった。</p> <p>(事業を取り巻く社会情勢) 当河川は、松江市内の中心地である橋北地区を流れ、大橋川へ流下する河川である。橋北地区は人口・資産が集中する地域であり、県庁、市役所等の地域の中核・拠点機能を有している。また、松江城をはじめとした文化財や史跡等も多く存在し、古くから出雲地域の経済・産業の中心地となっている。今後も流域内の土地利用の高度化に伴い人口・資産の増加が見込まれている。</p> <p>(事業に対する地元情勢・計画の熟度) 河川網を形成している松江市の橋北地区は、古くから出雲地域の経済・産業の中心であることから、洪水による浸水被害の解消は極めて重要かつ緊急の課題であり、地元住民は河川改修の早期完成を熱望している。</p>	<p>(費用対効果) b/c = 1.89</p> <p>(コスト削減・代替案等) 過去の河川改修事業を活かしながら、従来の河道拡幅による改修に加え流域対策（河川調整池等）を盛り込みコスト削減を図る。</p> <p>(その他の効果) 高度な土地利用が図られている区域であり、治水安全度の向上により、将来的に安全な生活基盤が確保でき、民生の安定が図られる。</p>	<p>(生活環境・自然環境への影響) 河川護岸の改築時には、堀川遊覧船等の観光に配慮しつつ、生物の棲家となるような材料や構造を工夫し、在来種への環境の改変を最小限に抑える計画を検討している。 また、排水機場、水門等の設置について、周辺景観に配慮した計画としている。</p> <p>(事業を中止した場合の影響) 現川の流下能力は低く、治水機能が大きく不足している。このまま現段階での事業中止では、家屋等への浸水被害を解消することは困難である。</p> <p>・浸水被害履歴 S34、39、47、49、56、61 H1、3、4、5、7、10、18、22</p> <p>S39：床上56戸、床下277戸、 浸水面積398ha S47：床上4,789戸、床下4,762戸、 浸水面積481ha S56：床上69戸、床下850戸、 浸水面積287ha H18：床上31戸、床下346戸、 浸水面積89ha(橋北全体)</p>	<p>(方針案) 継続</p> <p>(継続・中止の理由) 現河川の流下能力は低く、治水安全度は低い状況であるため、治水対策は必要である。 また、国が整備する大橋川改修工事が、H23年度より本格着手したことを受け、国等の関係機関と調整を図りながら引き続き事業を進めていく必要がある。</p>

# 朝酌川 流域治水対策河川事業

## 河川概要

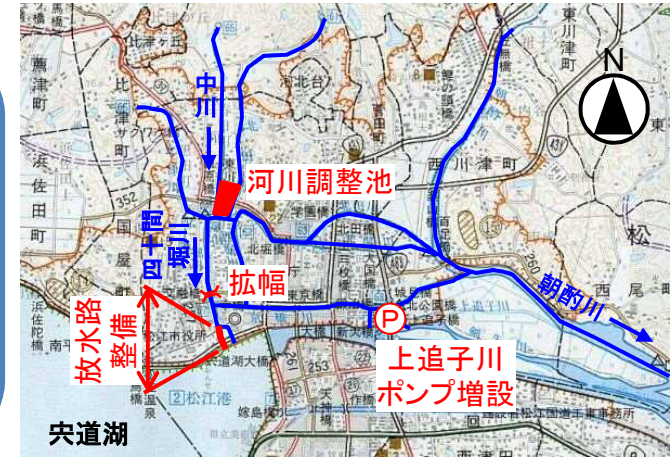
朝酌川は松江市の橋北中心市街地を流下し、大橋川に注ぐ延長約9kmの一級河川である。沿川の橋北地区では、昭和39年、昭和47年、平成18年をはじめとする梅雨前線豪雨等による洪水で浸水被害が発生した。

朝酌川沿川は、古くから出雲地域の経済・産業の中心であり、市街地の浸水被害の防止は極めて重要な課題である。朝酌川流域の治水対策を行うことで、地域の安全・安心に大きな役割を果たす。

## 事業概要

昭和47年7月豪雨相当の洪水に対して、松江市街地（橋北）の浸水被害の解消を図る。

- ・上追子川：排水ポンプ増設(5.4m<sup>3</sup>/s⇒10.4m<sup>3</sup>/s)
- ・四十間堀川：放水路整備、交融橋地点の拡幅
- ・中川：河川調整池の整備

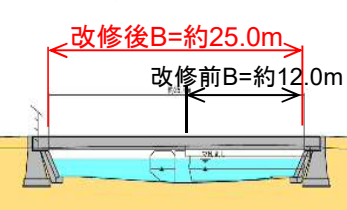


①S47.7洪水 松江市街地



②S47.7洪水 国道431号

交融橋地点  
断面イメージ



出典：国土地理院

凡例	
	浸水実績区域 (S47.7出水)



③H18.7洪水 松江市街地



④H18.7洪水  
四十間堀川沿川



⑤H18.7洪水 京橋川沿川

## 7 朝酌川 流域治水対策河川事業 費用便益比

### ①費用(億円)

	事業費	維持管理費	合計
基準年	R2		
単純合計	53.37億円	17.01億円	70.38億円
基準年における 現在価値(C)	46.24億円	5.29億円	51.53億円

### ②便益

	被害軽減期待額(便益)				残存価値 (便益)	合計
	一般資産被害 軽減期待額	農作物被害 軽減期待額	公共土木施設 被害軽減期待額	間接被害 軽減期待額		
基準年	R2					
完成予定年	R20					
単年便益 (初年便益)	4.07億円	0.02億円	3.83億円	1.24億円		9.16億円
基準年における 現在価値(B)	43.14億円	0.17億円	40.64億円	13.17億円	0.30億円	97.42億円

※ 間接被害: 営業被害、応急対策費等の間接的被害 ※ 残存価値: 将来において施設が有している価値

### ③結果

費用便益比(事業全体) B/C	1.89
-----------------	------